

user's voice vol.002 なかい歯科クリニック 茨城県境町

予後を重視する—地域に根ざした診療スタイル

ロケーション

都心から約50km。郊外の幹線道路を曲がり、体育施設へと続く道の突き当たりに位置するのが、なかい歯科クリニック様です。その立地は決して便利とは言えず、周囲にはキャベツ畑が広がる静かな環境の中に、まるで異空間のようにクリニックが佇んでいます。人口約2万7,000人の町には歯科医院が12軒あるものの、最寄り駅はありません。しかし、一步診療室に足を踏み入ると、外観からは想像できないほどモダンな空間が広がります。スタッフの動線を意識したレイアウト、コンピューター入力用に設計された医局、子ども専用スペースへの別入口など、随所にこだわりが光る医院です。

CEREC導入とその動機

展示会などで以前からCERECの存在は認識しており、親交のある東京の先生が大成功を取めたという話も耳にしていました。営業担当者によるデモを経て、2013年4月にCEREC ACを導入。同時にCEREC専任の技工士を採用し、約半年で月平均の使用ブロック数は70本を超え、投資効果を実証しました。

徹底したスクリーニング

地域に根ざした医療を実践するこの医院では、口腔内の金属を一律にセラミックへ置き換えるような画一的な治療は行っていません。従来から注力してきた歯周病(ペリオ)やカリエスリスク、唾液検査といったスクリーニングを通じて、まずは口腔内環境の改善を重視しています。

そのうえで、リスクを適切に管理し、CERECによる修復治療へと進むという方針です。この予防および予後を見据えた治療スタイルは、CEREC導入以前から一貫しており、新たな機器を導入した後も理念に揺るぎはありません。むしろ、こうした差別化された診療体制にCERECが加わることで、その独自性が一層際立っています。

医院の変化

もともと予防歯科が確立しており、患者の意識も高かったことから、自費診療率は高水準を維持していました。CERECも、医院のコンセプトに沿ってスクリーニングを徹底したうえで、必要と判断した患者にのみ提案しています。導入後は、コンサルテーションでCEREC治療の必要性を丁寧に説明し、患者自身に治療を選択してもらうことの重要性を強く実感しました。また、職種を問わず、スタッフ全員がCERECを十分に理解し、習熟したうえで患者に提供することが不可欠であると考え、院内全体でその実現に向けた取り組みを進めています。



導入に際する課題と克服

実際にCERECを運用してみると、ラバーダム防湿、ビルドアップ、隣接歯の分離などに想定以上の時間を要し、接着時のチェアタイムも当初は延びがちでした。また、ブロックの種類やシェード、セメントの選択にも悩まされ、慎重に決めたつもりでもセット時に不調和が生じることがありました。

そこで、数名のスタッフをセミナーに派遣し、得た知識や技術を院内で共有しました。また、メーカーの協力を得て院内勉強会も複数開催し、スタッフ全体の理解と技術力の向上を図りました。さらに、多くのスタッフが自らCEREC治療を体験し、その経験を患者への説明に活かすことで、理解の促進に努めました。手技については、業務終了後に一つひとつ練習・確認を重ね、課題の克服に取り組みました。



CERECの運用方法と工夫

IOSによるスキャンが全体の約9割を占めています。ラボサイドでは、フルマウスのインプラント補綴ケースや外注のモデルスキャンを間接法で行っています。インレーやクラウンなどは8割以上が即日修復で、患者さんにもワンビジットトリートメントのメリットを説明しています。

また、インプラント治療においては、CT(オーソフォスS3D)や3Dプリンターを活用し、埋入のプランニングやガイド製作、上部構造体の製作も行っています。小児矯正患者が多いため、矯正治療前後やMFT(口腔筋機能療法)のモチベーション向上のため、気道の抽出を検査ツールとして使用し、治療計画・記録・患者説明に役立てています。歯科衛生士によるOHI(Oral Hygiene Instruction: 口腔衛生指導)においても、口腔内スキャナーの画像や資料を有効に活用しています。

さらに、院内の目に留まる場所にはチラシやポスター、症例写真などを掲示し、患者への啓発活動も積極的に行っています。

使用ブロック数と価格設定

平均ブロック数 約100本/月

使用比率 e.max 約60%、CERECブロック 約20%、ジルコニア 約20%

■ CERECインレー: 45,000円

■ CERECクラウン: 55,000円

■ e.maxクラウン: 60,000円

補綴物には保証書も発行しており、補綴後2年間の保証期間を明記。また、メンテナンスの重要性についても記載されており、患者への説明の一助としています。



今後の展望

今後はさらなるデジタル化の一環として、3Dプリントによるデンチャーの製作や、院内完結型のアライナー矯正(インハウスアライナー)など、新たな分野への対応も視野に入れています。

これらの取り組みは、診療の柔軟性を高めるとともに、コスト管理の観点からも有効であると考えており、その実現には、歯科技工士のスキル向上が欠かせず、院内における教育体制の充実にも力を入れています。

また、歯科衛生士によるOHI(口腔衛生指導)への活用を見据え、IOS(口腔内スキャナー)のさらなる導入も視野に入れられています。急速に進むデジタル化を円滑に運用するためには、スタッフ一人ひとりの知識と理解の底上げが重要です。

こうした背景のもと、院長が理事を務める「日本臨床歯科CAD/CAM学会」では、学術大会や支部会などを通じて継続的にスタッフの教育機会を設けており、単なる機器の導入にとどまらず、院内全体でのスキル向上と運用体制の構築を重視しています。

Clinic Information

所在地/茨城県境町 チェア数/12台
診療時間/月~水・金 9:00~13:00、14:30~18:00
院内にデジタルラボ(N.Lab)を併設。

スタッフ構成/歯科医師:常勤4名、非常勤4名、DH:常勤6名、
DA:常勤7名、DT:常勤1名、受付・事務 常勤3名、クリーンスタッフ2名
シロナ製品/PrimeScan omnicam MCX inLabソフト MCX57 orthophos S

